

武漢熱線

Wu-han Hot Line

大分市武漢事務所
全 淑 麗

2013年武漢市の回顧

この一年を振り返ると、武漢は以下の分野に特に力を入れていたと言えます。

国際化の推進

近年来、武漢市政府は、都市の総合的な機能及び国際化レベルを高めるため、産業構成、金融・商業・貿易・流通、人材育成など様々な分野において、国際大都市の実現に向けて取り組んでいます。

実施スケジュール表——2013年8月に、武漢市政府は「武漢市国際化レベルアップ計画」を公布しました。2016年までに、中国中部と世界を繋ぐ国際門戸都市を構築、2017年～2030年に、グローバルな競争力と影響力を備える国際都市を構築、2031年～2050年には、核心的な影響力を備える国家中心都市を構築するとしています。2013年は計画実施1年目です。武漢市は、「大江、大湖、大武漢」の都市魅力を世界に発信し、フランス・パリにある中国文化センターには、「武漢の窓」コーナーを設置しました。

国際交流——武漢市は、既に世界の26カ国の40都市と姉妹都市、友好交流都市関係を締結し、ビジネス経済、観光、文化など幅広い分野で実り多い交流を展開し、協力関係を築いています。

国際航空路線——武漢発の国際線は、従来の日本福岡線、韓国ソウル線のほか、更に日本の静岡、韓国の済州、台湾3都市、タイのバンコク、シンガポール、アメリカのサンフランシスコ、フランスのパリ、オーストラリアのメルボルンなどの国際線が開通し、現在27路線まで増加しています。国際線の増便は、武漢と各国・地域間の経済、文化交流を促進し、武漢及びその周辺からの旅客の出国・観光に利便性を提供するとともに、武漢天河空港は華中地域の国際ハブ空港としての役割を果たしています。

領事館エリア——武漢市にあるフランス領事館、韓国領事館では既にビザ業務を行っており、2014年にはアメリカ領事館もビザ業務を開始する予定です。また、5月下旬にはイギリス領事館を設立、日本は領事代表処を設立する予定もあります。武漢市は既に漢陽の墨水湖の南側に領事館エリアの建設を計画しており、敷地面積は9.56ヘクタール、領事館建築面積44,200平方メートルを計画しています。この建設により、北京、広州、上海、南寧に次ぎ、武漢市は5番目に領事館エリアを有する都市となります。また領事館エリアの周辺には、インターナショナルスクール(小学校・中学校)も建設する予定があります。

国際直行便の開通、領事館エリアの建設をはじめ、武漢在住の外国人のための「家(ホーム・イン・ウーハン)」プロジェクトの実施等、武漢は着実に国際大都市をめざし歩み出しています。

都市インフラ建設

武漢市の都市建設投資額は、713.47億元(約1兆2,129億円)に達し、その内、緑化建設にかかる費用は40.15億元(約683億円)で歴代最高額となりました。武漢市の建設工事現場数は1万1千カ所を超え、オリンピック前の北京と万博前の上海に次いで工事現場数が1万カ所を超える都市となりました。

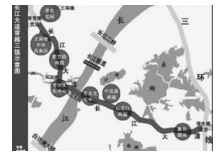
地下鉄——武漢市では、2012年12月28日に地下鉄2号線が開通しました。現在、一日の平均利用客数が40万人を超え、駅毎の乗降客数のトップ5は、光谷広場、江漢路、漢口駅、中山公園と街道口で、漢口



地下鉄4号線

駅が交通中枢のほかは、全て商業エリアの中心地に位置しています。現在、工事中の地下鉄は9路線あり、2013年12月28日には、地下鉄4号線が開通しました。2017年まで、毎年、地下鉄1路線の開通を予定しており、2020年には軌道交通が網状分布を形成し、55%の市民が、出かける時には地下鉄を選択することになるでしょう。

景観道路——長江大道は、漢口側の空港高速道路の入口である常青路三環路立体交差橋から、武昌の珞瑜路三環路立体交差橋まで、武漢市において唯一武漢三鎮を貫通する道路です。都市の歴史、自然、文化を堪能できる景観に優れており、全長29.7キロには、黄鹤楼、古琴台、長春館などの観光名所18カ所があります。一番広い道路幅員は12車線を有し、投資総額は189億元(約3,213億円)、2014年に全線開通する見込みです。



長江大道

都市圏高速鉄道——武漢をリーダー都市として周辺の中小都市を導き、共に発展するために構築した「1+8都市圏」の各都市への快速鉄道を建設しています。2013年12月28日には武漢一咸寧(赤壁の所在地)都市間鉄道が開通し、77キロを28分で結びます。また、黄石、黄冈、孝感行きの都市間鉄道も2014年に完成する見込みです。「1+8都市圏」都市間鉄道ネットワークの開通は、武漢を核とし、各都市に30分以内に到着できる鉄道ネットワークを形成します。



高速鉄道車両



1+8都市間鉄道

その他、鸚鵡洲長江大橋の開通、第二環状線の全線開通や市内高速道路ネットワークの構築、2015年に予定されている園林博覧会の開催に向けたインフラ建設も順調に進んでいます。

2049年構想

2013年、武漢市政府は「武漢2049長期発展戦略」研究セミナーを行いました。当該戦略は中国都市計画設計研究院が中心となり、国内外トップクラスの計画院及びコンサルティング機関が参与し、一年以上の期間をかけ編成したものです。

活力、高効率、環境保全、住みやすさ、包容力の五つの面から、グローバルな視点で武漢を位置づけ、国際競争力を備える持続発展可能な国際都市として、中国中部におけるトップレベルの代表的な大都市を建設し、エコな生態環境、住みやすい住宅団地、包容力のある文化的環境都市づくりにより、市民が幸福感を感じる都市をめざしています。



2049



2049セミナー